主な提言等と回答要旨（女性対象）

提言等の項目	H26秋に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
放課後児童クラブ	放課後児童育成クラブの現状について、各地区だけでなく、私立保育所で展開しているところの利用状況や、支援員の補充状況を聞かせてほしい。	現在、7地区9か所で実施しています。来年4月から国の「子ども・子育て支援新制度」が始まり、滑川市では従来、小学1～3年生までだった対象児童を6年生まで拡大します。今年6月実施のアンケートによると、対象児童の拡大に伴い、利用人数が現状から90～100人程度増えると見込まれ、場所の確保などを検討しているところです。支援員は、各地区の方に委託していますが、地区によっては不足しており、市広報誌で募集するなど、人員確保に努めているところです。
障がい者福祉利用券	自閉症の障害にはAとBの区分けがあり、Aに対する支援が手厚い一方、例えば購入費のかさむオムツの支給がBにはない。市の「障がい者福祉利用券」は銭湯や美容室を利用できるが、自閉症の子どもは銭湯や美容室の利用が困難であり、実際には使い勝手が悪い。「障がい者福祉利用券」をオムツの購入にも充てられるよう、検討してほしい。	ご指摘のとおり「障がい者福祉利用券」の用途は現状、入浴、理容、美容の3つに限られています。今回のご指摘や、さらなるご意見を集め、必要性も検討し、よりよい利用方法を模索したいと思います。
福祉介護化の窓口対応	市の福祉介護課に何か相談に行くたび、お役所対応で憤りを感じる。何を聞いても「広報に書いてありますので」で終わる。若者は広報など一切読まないし、周囲の人と話をする中で、新しい情報を知ることの方が多い。市民みんなが広報を読んでいると考えるのは大間違いなので、認識を改め、窓口対応改善に努めてほしい。	再度事情を伺い、福祉介護課や子ども課など、関係部署の横の連携を密にし、ご相談内容にできる限り親身に向かい合います。女性の社会進出に伴い、子どもを遅くまで預かれる公共施設へのニーズが高まっていることから、市民交流プラザ2階に整備する「子ども図書館」の開館時間を午後7時までとし、子どもの居場所として役立つ施設にするなど、子育て支援を推進します。
子ども医療費助成	子どもが夜間や土日に具合が悪くなり、市外の救急病院に行くことが多いが、そこでは「ピンクの用紙」（福祉医療費請求書）が使えないため、現金払いして帰ってくる。後日、市役所にあらためて出向かなければならない。かつてのように土日や時間外の対応を、再度検討してもらえないか。また、「ピンクの用紙」について、郵送対応はしてもらえないのか。	現在は土日や時間外の受付を行っていませんが、今後のありかたを内部で再度、検討いたします。「子ども図書館」の開館時間を午後7時頃までとする方向ですので、同施設窓口で請求書をお預かりし、子ども課に渡す方式なども視野に入れられると思います。 郵送対応について、従来はそのような要望や事例がありませんでしたが、お母さま方が仕事に出ていて日中の来庁が難しい社会情勢にも鑑み、今後は郵送での受付を可能にして、記載内容の不備や不明な点などがあれば市側から連絡して確認を取るなど、柔軟に実施していきたいと思います。
市道整備	滑川駅から坪川までの市道は、転びそうなほど歩行者部分がガタガタで、やむなく車道を歩いており、町内会長が市役所に要望にいったところ、市側がすぐに現地を確認し、整備を前向きに検討してくれている。素早い対応がありがたく、安心しながら生活している。要望ばかりでなく、役所に対してお礼を言いたい市民がいることも知ってほしい。	ご指摘のあった滑川駅前から坪川地内に向かう市道については、上水道が地中に埋設してある関係上、移設工事を先行して行う必要がありますが、遅くとも来年3月までには歩道の整備を終え、段差のフラット化などを図ります。頑張りますので、よろしくお願いいたします。
悪臭対策	隣家の悪臭に悩んでいる。市の生活環境課に相談したが、悪臭防止法の規制区域外とかで本腰を入れてもらえず、県の環境保全課にも相談を入れた。担当者に現場に来てもらってもいるが、状況がなかなか好転せず、身体や精神の健康を害しそうだ。環境省も畜産業とか製造業の工場だけでなく、飲食業やサービス業の店舗の悪臭を問題視してきており、市もより真剣に向き合い、住宅街での飲食店経営や、食品販売店の営業に、距離制限や悪臭対策設備の義務化などで規制を設けるなど、悪臭対策に努めてほしい。	ここ1か月ほど県と市の担当者が調査を進め、昨日も午前6時から午後9時まで実施しました。調査結果がまとまり次第、ご報告し、状況の改善にもつなげられるよう努めます。
高速道路インターの駐車場	高速道路の滑川インター駐車場は、市のものか、それとも中日本高速道路のものか。年に1、2回、楽しみの旅行に行きたいと思ってインターでバスに乗るとき、常に満車で自家用車の駐車スペースがない。係員に「ここは駐車スペースじゃない」と追い払われた人もいる。市とは全く関係がなく、市民が駐車できない場所なのか、実際はどうなのか教えてほしい。	同様のご意見を以前に受け、中日本高速道路の富山事務所に行きましたが、門前払いでした。同社には現状以上にスペースを広げる考えはなく、「乗り合わせで利用するなど、駐車台数を少なくするよう努力し、それでも難しければ、地元でほかの場所を探して対策してほしい」との回答でした。

主な提言等と回答要旨（女性対象）

提言等の項目	H26秋に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
緊急時の119番通報	独居老人であり、自分が倒れた時に、誰も気づかないのではないかと心配している。仮に自分は良くても、普段見守りに来てくださっている近所の当番の方が、たまたま死亡に気付かず、責められたり、心を病んだりすると迷惑がかかり、自分は死んでも死に切れない。倒れたら自ら電話で119番通報する力はないので、ボタン一つで119番通報できる機械などがもしあれば、市にタダで支給してくれとは言わないが、個人負担がいくらかかかってでも欲しい。	ご指摘のような緊急時の連絡ができる機器や、市が通信事業者へ業務を委託する制度が既にあるはずです。担当者がお話を伺い、手続きをお示しします。
介護保険制度の周知	介護保険制度の変更で、地域で要支援なり要介護度の軽い人の面倒をみるようになるが、団塊の世代をもっと活用してほしい。制度の変更点に関する宣伝も下手だ。	医療費抑制などの観点から、国の介護保険制度が平成27年度から変わります。これを受け、本市でも新たな介護保険計画の策定を進めています。制度の変更に伴い、例えばヘルパーや訪問介護ステーションの活躍のありかたも、変わってきますが、市民の皆様のニーズなどもよく把握しながら計画策定を進めていきます。
山の植林	山での植林を進めれば、クマなどがとどまり、鳥獣被害防止につながるのではないか。	英国では廃業した農家が土地を国に返し、その土地を森にする施策を展開し、大都市郊外には「グリーンベルト」と呼ばれる森が広がっていると聞きます。「担い手のいない耕作地を自然の森に返し、鳥獣被害防止にも役立つ」。そんな農業政策の構想も抱いています。
消防のサイレン	夫は消防団員だが、毎月１日と15日の啓発と見回りの際、音がうるさいと近所から苦情が来る。また、夜のサイレンも「子どもがやっと寝たのにうるさく迷惑」との声がある。しかし、緊急時の警報のためその意義は重要で、むしろ従来以上にサイレンをならし、災害の態様ごとに異なるサイレンの鳴らし方などを研究し、町内会の防災訓練などでも積極活用するよう勧めるべきではないか。	時代が移り変わり、特に地域コミュニティの性質がかつてと変化し、世代間でも音に対する考え方、とらえ方がだんだん異なってきていますが、消防の広報の重要性は不変的であり、もし苦情などがあれば、ぜひ市に連絡していただけたらと思います。市では消防への理解と協力をいただけるよう、お願いと呼びかけに、さらに注力したいと思います。
独居老人の過ごし方	市内の独居老人が暮らすうえでの参考になればと思い、自分の一人暮らしの体験談をお話しする。自分は小学校や地域でのボランティアに取り組み、寂しい時には近所の人をお茶に誘って遊びに来てもらうよう努めるなど、積極的に社会にかかわろうとしている。独居老人が普段から自宅でじっとしていると、死亡した時、誰にも気づかないおそれがある。	大変傾聴に値する体験談であり、認知症の福祉施設でボランティア活動を展開するデンマークの89歳女性のお話を彷彿します。ポジティブな意味での「老老介護」であり、社会の心の支えになってくれるお年寄りがますます市内に増えるとありがたいと思っています。
放課後児童育成クラブ	東部小学校区の支援員だが、来年４月からの放課後児童育成クラブ対象児童の拡大に懸念がある。持ち場はもともと児童数が多く、西部小学校区同様、他地区より負担が多いが、支援員の割り当て人数がその他の地区とさほど変わらず、現状に即していない。すでに手一杯の状況。市は「４月からも登録人数はさほど増えない」と言うが、１年生と5，６年生では１人あたりの手間が全く異なるという認識がない。建物などのハード面の準備だけでなく、それ相応の支援員の割り当てについての配慮を。チラシ、ポスター、市広報誌だけに頼る支援員の募集方法は不十分だし、もっと注力・工夫をお願いしたい。	支援員については、ご指摘のとおり、より多く必要になるところであり、広報、ポスター等で募集し、またマンパワーに優れた市内の老人会組織などにも相談していますが、なかなか応募がないのが実際です。この場を借りて、出席者の皆様にも、支援員に名乗り出てくださる方がおられたら、子ども課までお声掛けいただけますようお願いします。人数配分については、来年度から改善して予算に反映できればと考えており、助成内容の質向上につなげたいと考えております。
食育推進	市民健康センターと連携し、食育事業に参画しているが、園児や児童生徒の野菜摂取と地産地消が推進され、市の施策に感謝している。さらに、市内の園児や児童には、食材の栽培や農家の苦労なども一から学べる機会を提供してほしい。農業だけでなく、例えば海洋深層水からの塩づくりや、その塩を使ってのおにぎり作りなど、食育をさらにもう一歩進めてほしい。食育に携わるメンバーの間では、堀江の運動公園に市民健康センターや農林課の協力も得て果樹園を作り、今後、梅干しや干し柿を食育で活用するために、梅の木を植えてはどうかというアイデアも出ているが、市側の見解はどうか。	スポーツ・健康の森公園近くのスギノマシン駐車場の高台には、柿や栗、クルミの木が植えてあります。堀江の運動公園にも、ぜひ梅を植えて、市内の子どもたちが梅干しづくりなどを実践できるよう、使っていただきたいと考えています。都会ではマグロ本来の姿を知らず、刺身が海を泳いでいると考える子どももいると聞きますが、市では食材本来の姿を折に触れて伝えるよう努めていきます。海洋深層水の塩については、市シルバー人材センターが手掛ける「銀の塩」があり、後味も甘くておいしく、新年度から滑川ブランドとして積極的に売り出していきたいと思います。

主な提言等と回答要旨（女性対象）

提言等の項目	H26秋に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
固定資産税の安さアピールを	滑川市の固定資産の基準地価格は、近隣の魚津市や黒部市よりも低く、固定資産税が安いはずだ。魚津市や富山市郊外などからも、もっと転入者を増やし、工場も誘致するうえで、大きなアピールポイントであるにも関わらず、認知度は低いように感じる。実際、固定資産税の安さに惹かれ、移住してきた人も多く知っている。滑川市の人口はここ最近、３万４千人程度から増えない。人口減少時代の中で、滑川市が消滅しないよう、このアピールポイントをさらに宣伝してほしい。	日本は本格的な少子高齢社会、人口減少時代に突入しました。今の子どもたちが成人したとき、少ない人口では、この滑川のまちを支えられなくなるでしょう。やはり一定数の人口確保が大切です。市では、「子ども第一主義」を掲げ、他市町村に先駆けて中学3年生までの医療費無料化や、第3子以降の保育料無料化を実施し、インフルエンザの予防接種の補助も始めました。保護者からの歓迎の声が聞かれます。これが奏功し、市外からポツポツとではありますが、滑川に移住し、家を建てる若者世代が増えてきているようです。まちの活性化に成功した先進地では常に、若者世代や転入者が町おこしで大きな役割を果たしています。従来の住民が気づかない新しい発想や新しい風をまちに吹き込んでくれる若者世代をますます呼び込む施策を展開してまいります。